

第 33 号
 発行日 2017年4月25日
 発行人 立山山麓ボランティア
 ガイド「うれの会」
 責任者 中島 敬二
 事務局 富山市大山町上滝288
 URL=http://www.toyamav.net/~urenokai/

先細りを心配する声

リフトやゴンドラ運休相次ぐ

立山山麓の旅館やペンションの関係者からは、スキー場のリフト運休や観光協会の大山支部閉鎖、ゴンドラの運休などについて「だんだん先細りになっていく様で不安だ」との声が出されています。

スキー場の土地利用契約で混乱 利用契約更新に目処 リフト存続

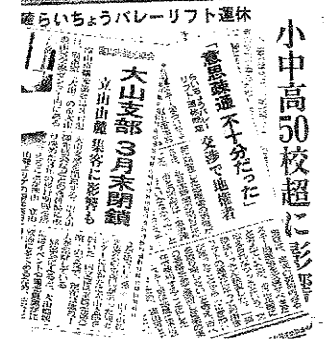
昨年の12月、一部で話が出ていましたが、「らいちょうバレースキー場のリフト運休」が新聞報道で明らかになり、立山山麓の旅館やペンション、スキー場、学校関係者などに衝撃が走りました。一部の地権者の同意を得ることが出来ず、土地利用契約の更新が出来なかったためです。

運休となったリフトは初心者用のユートピアグレンデにある第2パラレルリフトで、A線870m、B線724mあり、中腹の第3リフトに連

絡しています。これにより第3リフトも運休、ナイター営業も取りやめとなりました。このため、ここでスキー学習を予定していた小中高校約60校7千人の9割近くが会場変更を余儀なくされました。また、大山観光開発では運行を断念する前に販売したシーズン券の払い戻しに応じるなど対策に追われました。そして、富山市は4月からの新年度予算に撤去費用を計上しました。

3月に入り、地権者が一転

スキー学習会場



リフト運休などを伝える

して契約更新に応じる意向を示しました。地権者は地代値上げなどの要望をすべて取り下げ、更新前と同じ条件での契約を望んでいる、と新聞報道にあります。事態の変化で利用契約の更新に目処がついたため、富山市はこれまでの撤去から存続に方針を変えました。地権者は市との交渉について「意志疎通がうまくいかなかった」「皆さんに迷惑を掛け申し訳ありません」と話し、さらに「賑わいを取り戻したい」とも考えている、との報道もされました。

観光協会大山支部を閉鎖

今後は本部事務局が対応

富山市観光協会は3月31日をもって大山支部を閉鎖しました。現富山市観光協会は2014年4月、富山市、大沢野町、大山町、婦中町、細入、山田の観光協会が統合したものです。その際、大山地域にはイベントや観光資源が多くあるため3年の移行期間を設けて支部設置し対応に当

たってきましたが、今度その期間が終了したものです。今後はCICビルにある協会事

務局が引継ぎ、「立山山麓の魅力を発信したい」としています。

運休からの営業再開を断念 ゴンドラやジップライン

立山山麓スキー場のゴンドラリフトや大型遊具「ジップラインアドベンチャー立山」を運営している大山観光開発

はゴンドラリフトの支柱に不具合が見つかり、ゴールデンウィークからの営業再開を断念しました。

2017年度総会を開催

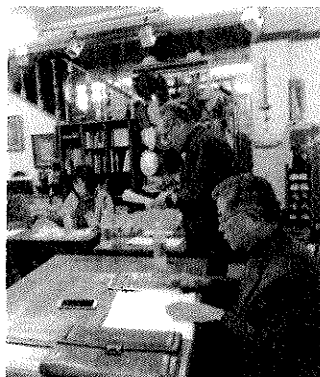
情報を集め活動の間口を広めよう

4月23日、うれの会は上滝の事務所に於いて2017年の総会を開催しました。

会長から、この1年、皆さんの協力で無事やってこれ感謝しています、と挨拶がありました。続けて、私達うれの会を取り巻く環境は、ゴンドラリフトの運休や協会大山支部閉鎖など厳しいものがあり

ますが、会員一人一人が主役になれる企画をつくり上げ、今後の活動につなげたい、との話がありました。話の要旨は次の通りです。

大切なのは活動を地域に広げ楽しいガイドをしていきたい、と考えている。例えば昨年行ったCIC5階での案内活動や黒部の樺平・鐘釣への



総会の模様

ガイドなど積極的に行いたい。その方策として、親戚や知人、町内などの情報を集め、活動の間口を広め会員のモチベーションを高める活動が大切だと考えている。

20年の実績に誇りを 事務局長

日々研鑽に努め会員の拡大も

中沢事務局長から活動報告や新年度の活動方針、さらには予算、決算の提案があり、会計監査も含めて全員の総意で確認されました。

事務局長から提案された活動報告や新年度の活動方針は次の通りです。

ガイド実績では、派遣したガイド91人（前年82）、客数1142人（前年1127）となったほか、CIC5

階での山岳情報コーナーの従事などがありました。

また、新年度の方針では、20年の実績に誇りを持ち、ボランティアの精神と「おもてなしの心」を忘れず、ガイド活動を行う。そのため日々研鑽に努めること。会報「うれ往来」の発行の継続を目指す。そしてプロジェクターやパソコンなどを積極的に活用し、行動範囲を広げる。さらには

アルペンルートや山麓、立山歴史文化の紹介、黒部峡谷の紹介などにも取り組む。また、新入会員の勧誘にも力を注ぐ。などの提案がありました。

自然保護をテーマに研修も

出席した会員の発言で、環境破壊が進んでおり、ガイド活動にも環境保全の観点が必要である。生物や植物の多様性などの勉強が必要である。との意見をふまえ今年度の研修は「自然保護」をテーマとする事になりました。

立山黒部を世界的観光地に

県スイス・イタリアに調査団

富山県は立山・黒部地域を世界的な観光地にしようと、今年度スイス、イタリアに調査団を派遣する予定にしています。スイスの滞在型山岳リゾート地、ツエルマットやイタリアのクールマイユールに学ぼうとするものです。一方、立山黒部貫光ではアルペンルートの夜間運行をはじめとする営業時間の延長や期間拡大など、さらには冬季営業や新施設などを展望した中長期ビ

ジョンを策定したとも伝えられています。

マスコミによれば、「立山・黒部を世界的な観光地にするため」の県の検討会が3月27日に東京で開かれた、と伝えていきます。この検討会は大学教授などの有識者や関電関係者などで構成されていて「立山黒部の世界ブランド化」に向けて検討するプロジェクトをとりまとめています。

主要なプロジェクトを拾っ

てみました。

○営業時間を延長し、星空を観察するツアーなど魅力あるプログラムを展開する。

○「関電黒部ルート」については、より多くの観光客が訪れることが出来るように商品化に取り組む。

○立山駅と弥陀ヶ原を結ぶロープウェイの建設に向けて調査・研究を進める。

○ハイグレードな宿泊施設の整備を検討する、などです。

2度のトレッキングをガイド

カンジキ装着し雪上散策を楽しむ

たくさんの人たちに銀世界の魅力を知り、楽しんでもらおうと、今冬も2度に亘りカンジキトレッキングが行われました。これは大山観光開発や北日本新聞社、私達うれの会などの実行委員会の主催で行われたイベントです。1回目は2月18日、約60人の参加で、らいちょうバレーのゴンドラ山頂駅から瀬戸蔵山(1320m)までを往復するコースで行われました。うれの会では3名のガイドを派遣し、カンジキ装着の指導をし、コース解説などの案内にあたりました。

第2回目は3月4日、1回目と同じコースで行われました。この日も好天で約60人の参加者が、うれの会の会員4名のガイドで雪上散策を楽

しました。そして瀬戸蔵山山頂では雄大な立山の姿に歓声が上がっていました。

いずれの回も参加者のほとんどはカンジキ初めてで貴重な体験を楽しみトレッキングを終えました。お昼には山麓駅で熱々のトン汁で昼食を味わいました。



カンジキトレッキング

雪山の魅力を知ろう

動物や樹木など新たな発見も

登山家やスキーヤー・ボーダーは別として、冬の立山山麓は雪に覆われていて近寄り難い、と思っている人が多いのではないのでしょうか。ちょっと吹雪くとあつという間に死と隣り合わせの世界になります。しかし、そんな雪山でもそれなりの準備をする事により入る事ができ、町中とは違

った世界を見ることが出来ます。雪の上にはウサギやキツネなどの足跡があったり、小鳥達のさえずりを聞いたりすることが出来ます。また、寒さから身を守ろうと固く閉じている樹木の芽も少しずつふくらんで来ている事もあります。また、木々は葉っぱを落とし見通しが良くなり、普段観察できない熊だなやヤドリギが見られる事があります。

繁殖の期待高まるライチョウ飼育

資金や人手不足の心配も

ニホンライチョウの保護増殖事業が国の取り組みで進められている。現在、富山市のファミリーパーク(7羽)と上野動物園(4羽)、大町山岳博物館(3羽)の3カ所で人工飼育が進められていて、これらの3施設とも雌が1羽ずつ育てている。昨年、乗鞍岳で採卵された卵の孵化率は100%だったことで各施設とも飼育技術にある程度目処が立ち、今年度は繁殖を目指した取り組みに力を注いでいる、とのこと。うまくいけば1羽の雌は6個~10個産

卵するという。期待が高まるばかりであるが、問題もあるようだ。1つには飼育施設や人手の不足が上げられている。もう1つは飼育にかかる費用は動物園の負担となっており、繁殖が進めば人手も資

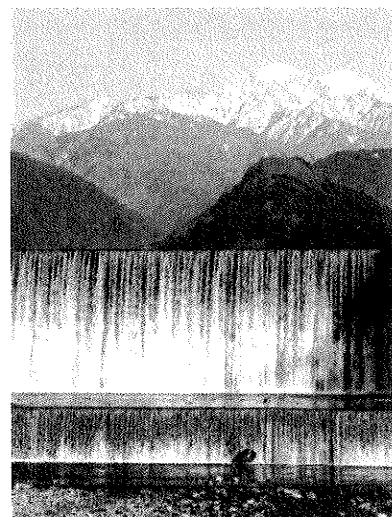
金も足りなくなる心配がある、という。そのため富山市のファミリーパークではライチョウ基金の設立を検討していると、新聞報道にある。これには市民の暖かい支援が欠かせない。

室堂周辺で295羽のライチョウ

シカの進入を確認 早急の対策を

昨年6月、県が室堂周辺でライチョウの生息数調査を行った。雄が169羽、雌が126羽、合計295羽が確認され、富山県内全体では推定1300羽が生息していると

発表された。一方、室堂でニホンジカが確認されたとの報道があった。ライチョウが食べる高山植物が食い荒らされる心配がある。早急な対策の必要性が指摘されている。



立山砂防 世界文化遺産に 遺産登録への現状と問題点

平成20（2008）年、「立山・黒部」は世界遺産暫定一覧表候補の文化遺産「カテゴリーⅡ」とされました。

さらに富山県などは「白岩砂防堰堤」や「本宮堰堤」など、歴史的砂防施設群の世界文化遺産への登録を目指しています。そのために県などで構成する県世界遺産登録推進事業実行委員会が国際フォーラムなどを開催してきました。新聞報道から「立山砂防」の世界防災遺産登録への現状や問題点を拾ってみました。

評価基準に該当する点 幾つも

いかにアピールするかの工夫も必要

立山砂防の資産範囲や特徴について専門家は次の様に指摘しています。

○水系一貫の防災システムを発達させてきた巨大な土木遺産であるとして次の3点をあげている。①総合的な水管理技術の到達点。②災害の多い国、地域の顕著な実例である。③自然と調和した防災技術の典型

○資産としては白岩・泥谷・本宮の砂防堰堤と砂防工事専用軌道、真川の跡津川断層が考えられている。

○「水管理」分野の世界遺産10事例の中には、中国都江堰の巨大な灌漑施設、ベルギーの中央運河などがあるが「防災」を主にしたものはない。独自のユニークなコンセプトである。

また、世界遺産の評価基準の主な点は次の通りです。「立山砂防」はこれらの基準の幾つかに該当すると考えられています。

①人間の創造的才能を現す傑作②技術の発展に関する人間の価値観の重要な交流を示す

③文化的伝統または文明の証拠④歴史上重要な段階を物語る技術の集合体の顕著な見本⑤生きた伝統と直接関係がある⑥類希な自然美を有する地域。

克服すべき問題点も指摘さ

立山黒部を世界ジオパークに 認定に向けた活動や講習

一方、平成26（2014）年には、北アルプスから富山湾に至る「立山黒部エリア」が日本ジオパークに認定されています。県や専門家などでつくる「立山黒部ジオパーク協会」では2020年頃の「世界ジオパーク」認定を目指し、今年4月、申請手続きを行います。この申請をうけて7月に国内の事務局や専門家が審査や視察を行いユネスコへの推薦を検討する事になります。

また、協会では認定に向けた活動や理解を進めるため各地で出前講習を開いています。主な内容は次の通りです。

「立山・黒部地域」は①富山県東部の9つの市町村にま

れています。

現状では、見に行きたいと思っても簡単には行けない所である。私達県民ですらそうであり、国内外の人に、いかにアピールしていくのか、の工夫も大切である。

たがること②立山連峰から富山湾までの高低差4000mの壮大な地形や水の循環を学べること③立山信仰や砂防・治水の歴史などの文化が築かれていること、などとなっています。

「ジオパーク」とは美しい自然や学術的に貴重な地形などを見どころとする大地の公園。教育や観光に役立てるユネスコの事業で、国内では大規模な断層フォッサマグマで知られる糸魚川地域や洞爺湖・有珠山、島原半島、隠岐、山陰海岸など8カ所が「世界ジオパーク」認定されている。

林床に生えるキクザキイチゲ キンポウゲ科とキク科の違い

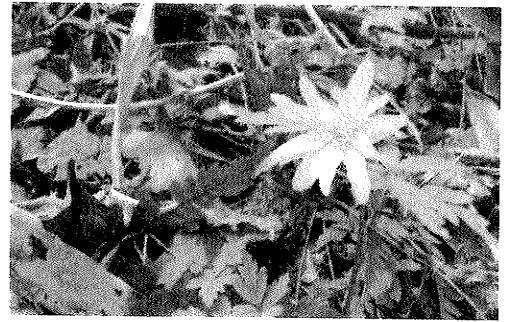
林の中にはえる多年草。キク科ではないのに花の咲き方が「キク」のようで、花茎は1個だけ高さ10～30cm。なので「イチゲ」とついた。花色は白から淡紫色まで色々である。写真は能登半島で写したもの。この写真を撮るために能登半島まででかけた。今年初めての山歩きである。

ヤマバテしない様に晴れ間をみて約1時間位2週間歩いた。仕上げは吉峰のアーバー

タワーまでの遊歩道の一周である。問題なく歩けたので、能登の猿山は大丈夫だろうと思い参加したが途中で長い登りがあり、休憩場所で足がストップしてしまった。全行程を歩く予定をしていたのに。体力の衰えを実感・・・。

ところで、キンポウゲ科とキク科の違いは何かわかりますか？それは花の後ろを見るとうわかる。キンポウゲ科のキ

キクザキイチゲ

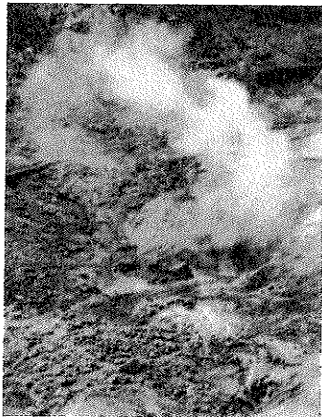


クザキイチゲは、がくに相当する緑色の部分がない。花びら状のものだけである。キク科の後ろ側にはがくに相当する緑色のものがある。これが双方の大きな違いである。キンポウゲ科イチリンソウ属 (吉井)

地獄谷の常時観測体制整う 今年度ハザードマップを作成

立山地獄谷では2012年以降、噴気活動が活発化しており、火山ガスの噴出が増加し、健康に悪い影響を及ぼす

噴煙をあげる様子



亜硫酸ガスなどが高濃度で観測されています。

2014年の御岳山噴火で多くの犠牲者が出ましたが、これを受けて気象庁は弥陀ヶ原火山を「常時観測火山」に加えました。常時観測は、火山近くに観測機器を設置し気象庁にある監視・警報センターで24時間体制で監視します。そして変わった動きがあれば警報や情報を発信します。

一方、昨年12月、国は突



発的噴火の対応を強化するため、全国49の火山の周辺自治体に取り組む避難計画策定の手引きを改定しました。この避難計画は法的に義務づけられていますが、弥陀ヶ原に関しては策定はこれからなっています。富山市、立山町、上市町などをつくる「弥陀ヶ原火山防災協議会」では本年度中にハザードマップを作成、来年度以降になりますが、避難計画の策定をする事を確認しています。

編集後記▼今年うれの会は20周年を迎えます。全員の知恵を結集して記念事業を成功させたいものです▼今年、富山県は立山カルデラ内での地熱発電所建設を目指して本格的な調査に乗り出す、とマス

コミで報道されました。昨年実施された地表からの調査では発電に必要な「地熱貯留層」が存在するとのデータが得られ、開発が有望視されています▼オリンピックを前に外国人観光客の増加策が検討さ

られています。県は今年スイス、イタリアへ調査団を派遣し立山黒部を見直し、中、長期のビジョンを打ち出したい、としています▼一方、山麓ではゴンドラの休業や協会支部閉鎖に不安の声が出ています。